福島イノベーション・コースト構想

FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

福島ロボットテストフィールド
～　概要と活動状況について　～
令和8年１１月版



CONTENTS

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

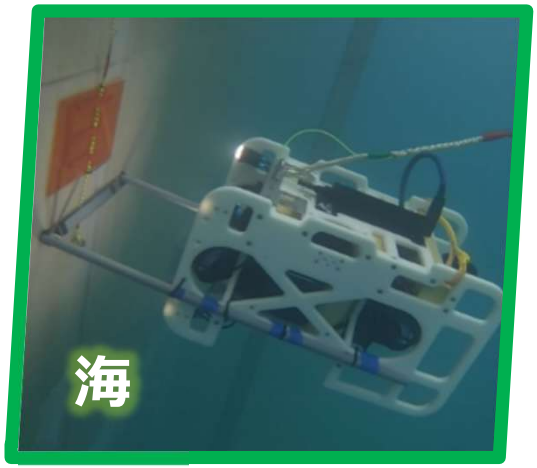
- 福島ロボットテストフィールド　概要
- RTFのミッションと遂行に向けた取り組み
- これまでの成果
- 今後の取り組み

福島ロボットテストフィールド（RTF）

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

「福島イノベーション・コースト構想」に基づき整備された、「陸・海・空のフィールドロボット」の一大開発実証拠点









所　　有　福島国際研究教育機構（F-REI）

F-REI
福島国際研究教育機構
Fukushima Institute for Research, Education and Innovation

管理運営　(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構

福島イノベーションコースト構想推進機構

立　　地　南相馬市、浪江町

南相馬市　浪江町

開　　所　2020年3月31日　全面開所

RTF

福島イノベーション・コースト構想

- **「福島イノベーション・コースト構想」**は、東日本大震災および原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業回復のために、**新たな産業基盤の構築**を目指す国家プロジェクト
- 福島ロボットテストフィールド等の拠点整備を含めた**主要プロジェクトの具体化**に加え、**産業集積**の実現、**教育・人材育成**、生活環境の整備、交流人口の拡大等に向けた取組を進めている

6つの主要プロジェクト

- 廃炉
- ロボット・ドローン
- エネルギー・環境・リサイクル
- 農林水産業
- 医療関係
- 航空宇宙

「空飛ぶクルマ」の実証や関連企業を誘致



国内外の英知を結集した技術開発



技術開発支援を通じ企業の販路を開拓



RTFを中核にロボット産業を集積



ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生



先端的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立



実証環境／技術の提供　～世界に類を見ない実証環境

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

インフラや災害現場などの実際の使用環境を再現した「４エリア」「全21施設」



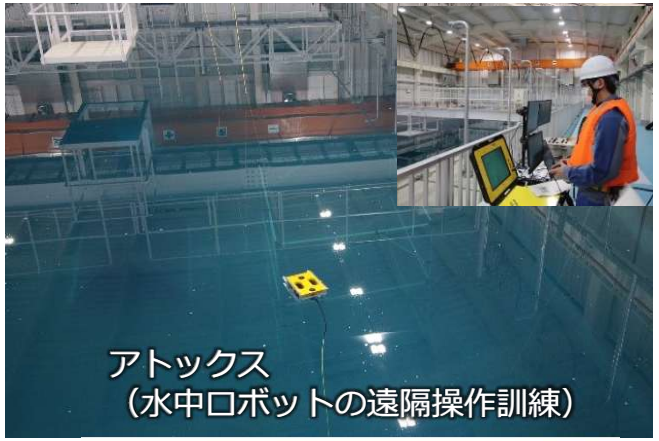
施設の活用事例　～多種多様な実証実験を展開

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド


東芝インフラシステムズ
（対ドローンセキュリティシステムの実演）


産総研（ドローン落下試験）


eロボティクス
（高層気象観測ドローン）


アトックス
（水中ロボットの遠隔操作訓練）


自衛隊（災害ドローン訓練）


総務省消防庁
（ドローン運用アドバイザー育成研修）


World Robot Summit 2025



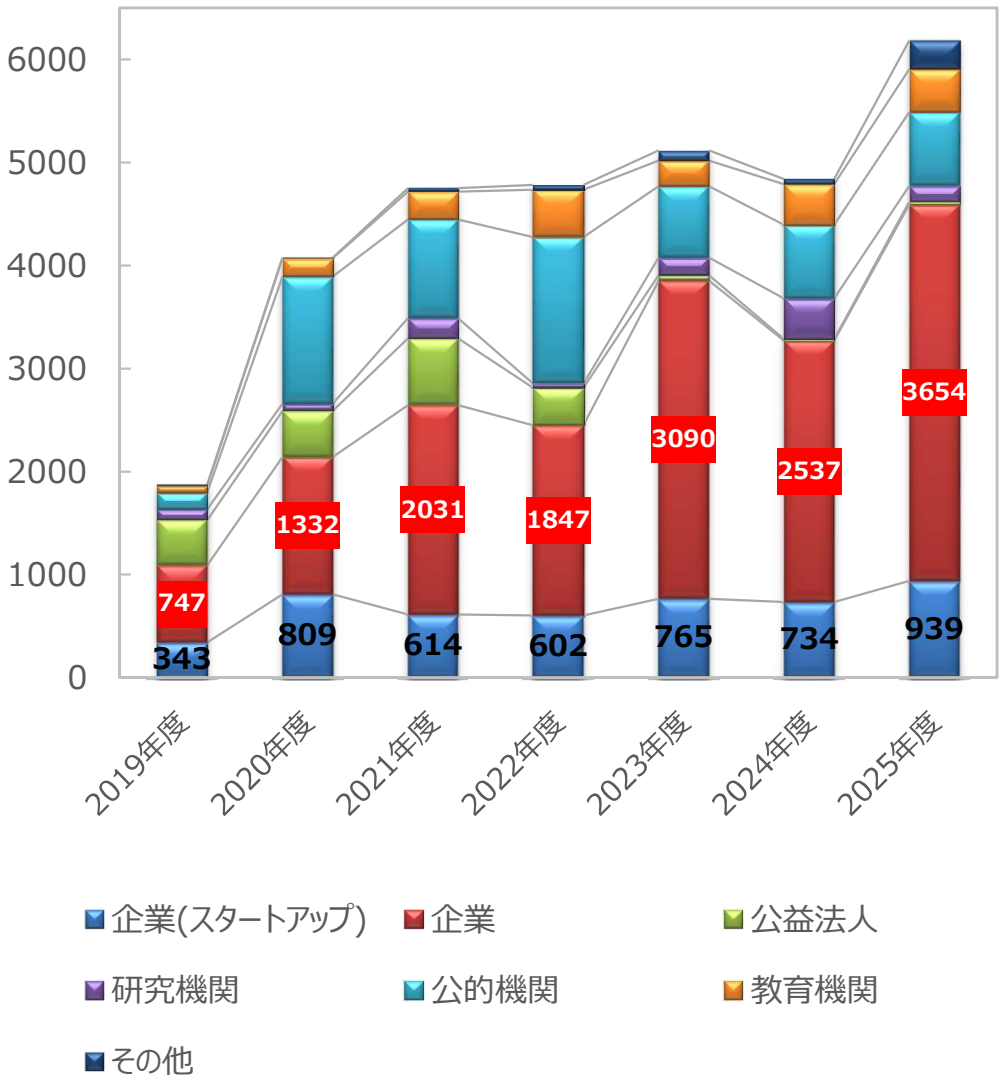
東光鉄工
（ドローン耐風性能試験）


パシフィックコンサルタンツ
（トンネル点検試験）

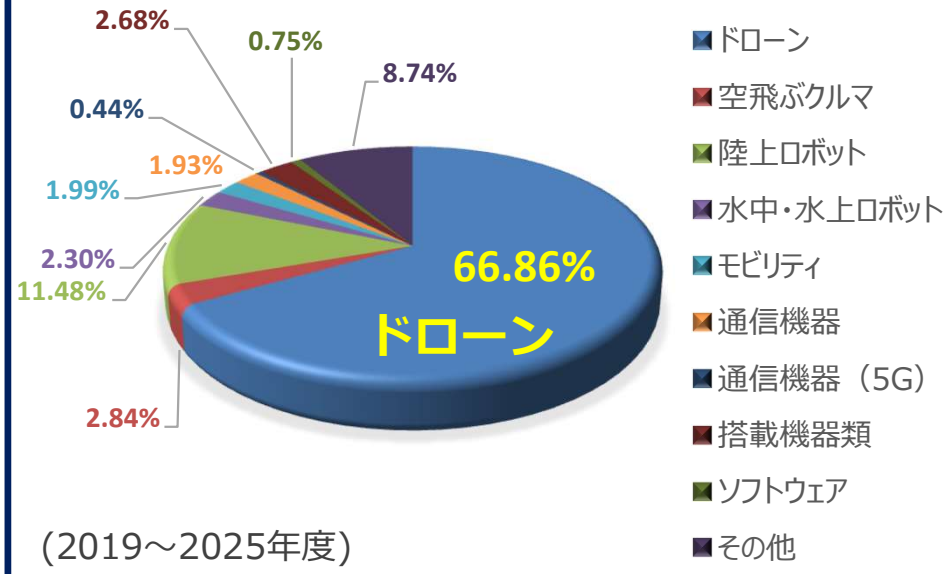
施設の活用状況　～ドローンを中心に利活用が増加

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

フィールド施設等の使用件数



ロボットの種類別使用状況



(2019～2025年度)

敷地内実証件数

1,523件

（2017年9月～2026年10月）

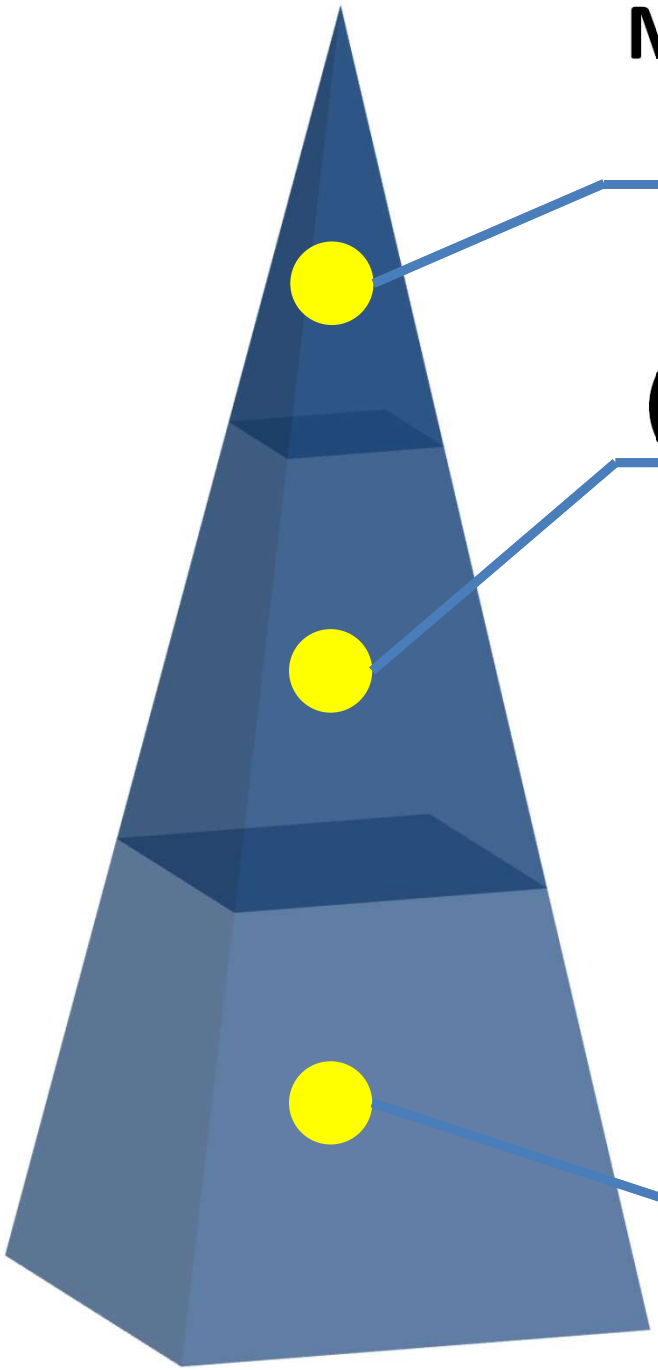
ロボットテストフィールド来訪者数

156,055名

（2018年7月～2026年10月）



■RTFのミッションと遂行に向けた取り組み



Mission (Why)

■福島県復興のため
新たな産業基盤を構築する。

Vision (What)

■ロボットの社会実装により、
安全で豊かな社会の実現に貢献する

Value (How)

1．世界トップレベルのロボット実験環境/技術を提供し続ける

2．国内外のロボット研究開発、運用者の交流を促進する

3．ロボットの安全性確保、社会実装のための仕組みつくりに貢献する

4．ロボットに係る次世代の人材育成に貢献する

1．実験環境／技術の提供　～研究棟の機能

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

◆ 研究者の短期～長期の活動拠点として「研究室」を20室貸出（以下抜粋）













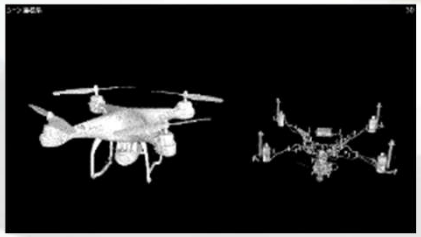




◆ ドローンの性能評価試験に加え、各種計測、分析、加工、環境試験が実施可能

⇒「福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センター」が併設され、設備の利用支援やロボット技術等の技術相談等、研究開発をサポート







福島県ハイテクプラザ
南相馬技術支援センター

相双地域を中心とするものづくり企業の技術力向上や新産業・新分野への参入支援を行う他、福島イノベーション・コースト構想の実現に向けて、県の重点施策であるロボット関連産業の育成・集積を推進。

1．実験環境／技術の提供

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

ドローンの性能試験に関連する設備や研究開発に関する最先端の加工設備も整備

通信・電磁干渉試験







電波暗室・OTA計測システム

積層造形（3Dﾌﾟﾘﾝﾀｰ）



5軸マシニングセンタ
（Metal3Dﾌﾟﾘﾝﾀｰ付）



Laser Metal Deposition 3Dプリンタ

飛行性能・運動特性・耐風性能試験



3ｍ×3ｍ 低速風洞



ドローンアナライザー

内部観察



エックス線CT装置

2．研究開発、運用者の交流を促進

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

RTFのスケールメリットを活かした実演展示会「ロボテスフェスタ」

- 2020年度より1年に1度開催（21年度はオンライン開催）
- 2026年度：第7回ロボテスフェスタ 2026(2026.10.3) ： 出展者35者 来場者 1,546名









大型展示会での情報発信

- JapanDrone2025（@幕張、大阪）
- 第4回ドローンサミット（@愛知）
- ロボット・航空宇宙フェスタふくしま　etc





災害対応訓練での活用状況

136事例

（2019年4月～2026年10月）





＜主な利用者＞

福島県消防防災航空隊、福島県警察本部　ほか

3．社会実装の仕組み作りに貢献

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

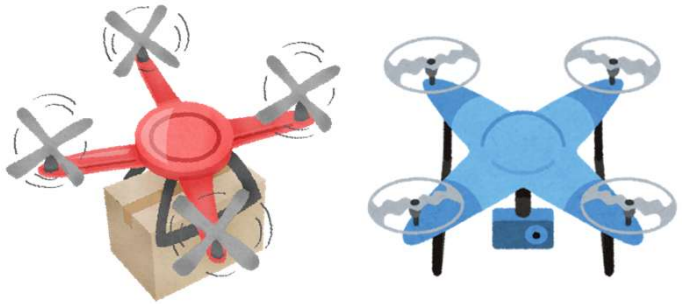
RTFを活用した各種ガイドライン整備を推進（Web公開）

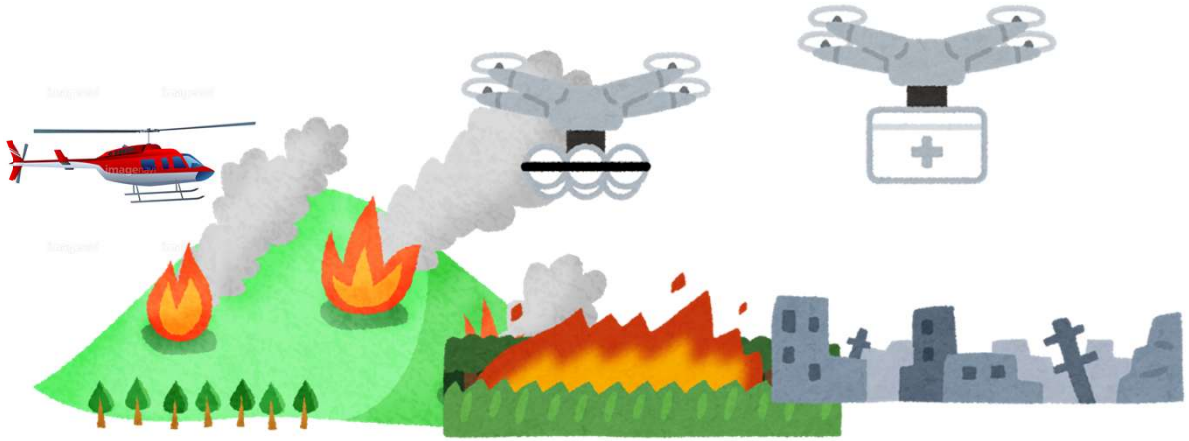
該当ページはこちら→



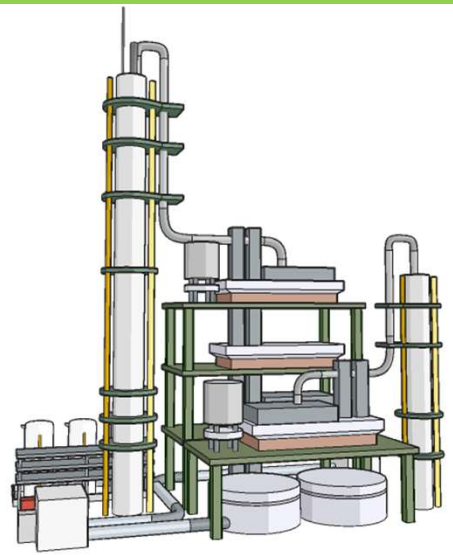
無人航空機の運航リスク評価ガイドライン（2022年12月）

ドローンサービスの提供に関するJIS制定（2024年8月）





プラント点検等の運用ガイドライン・教育カリキュラム（2020年5月）



災害時における無人航空機活用のための航空運用調整等ガイドライン（2026年3月改訂、2022年4月初版発行）

4．次世代の人材育成

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

次世代のロボット産業を担う人材の裾野拡大と育成を推進

小中学生向けプログラミング教室

- ロボットを動かしながらプログラミングの基礎を学ぶ

利用団体
125団体
3,073名
（2020年度～2025年度）


リビングロボット
（メカトロウィーゴ）





児童・生徒に対する出前講座や見学受入れ/ロボット・航空機に関する講話

- ロボット操作体験やVR体験などを組み込み、見学の受入れや出前講座を実施
- RTF副所長やRTF入居企業を講師としてロボット・航空機について学ぶ機会を創出

見学者
11,544名
（2020年度～2025年度）

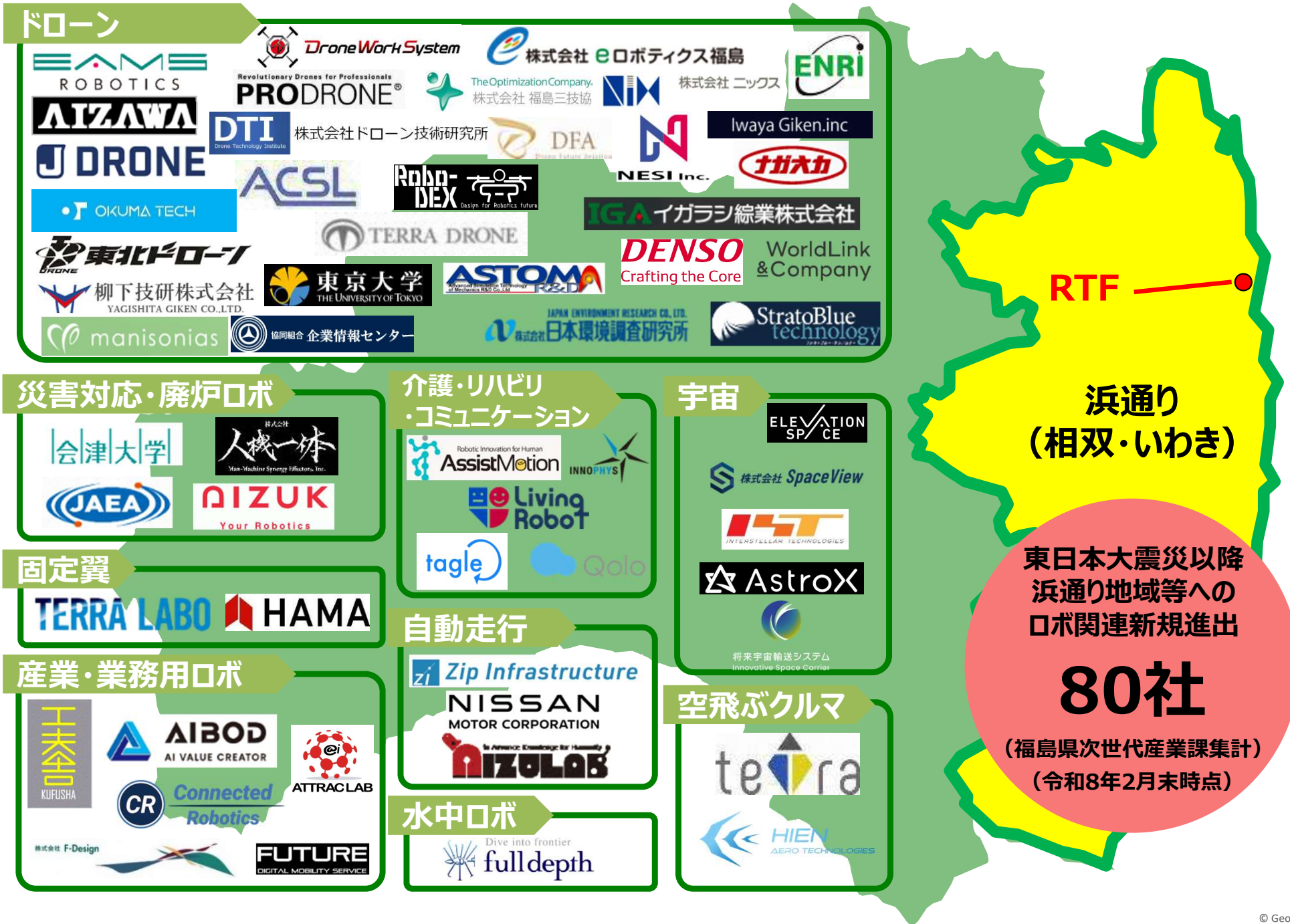






■これまでの成果（産業集積）

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド



© GeoNames, Mi

●広域・実運用環境整備　～ より実践的な実証に

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

・福島浜通りロボット実証区域(県により指定)における
ロボット・ドローン(無人航空機)による実証試験のサポートを実施
・これまでの実証件数は 478件（2015年8月～2026年10月）

「南相馬～浪江間13ｋｍ」の広域飛行環境整備

- 両拠点間の陸上ルート整備に向け、南相馬市及び浪江町とRTFとの連携体制強化に向けた調整を開始
- 私有地等の上空を含むドローン飛行に必要となる、地元関係者の理解醸成および合意形成に取り組み中
- 南相馬市・浪江町でのドローン飛行実証について、事業者による地域へのアプローチを実施するための支援を行う
- 複雑かつ多岐にわたるステークホルダーをつなぐハブ機能の確立を目指す







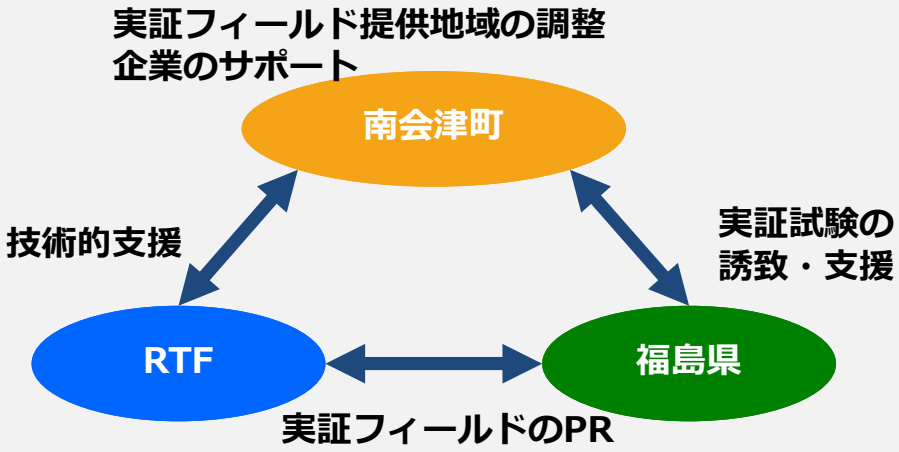


●広域・実運用環境整備　～ より実践的な実証に

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD
福島ロボットテストフィールド

南会津町寒冷環境・山間部 実証フィールド整備

- 南会津町と連携し冬季氷点下環境での実証、山間部の飛行実証環境を提供
- 廃校を活用した「南会津町寒冷地テストフィールド」を整備





南会津町寒冷地テストフィールド
（旧檜沢中学校）

南会津町気象データ
※令和６年１月
平均気温：-0.6℃
最低気温：-11.2℃
最深積雪：50ｃｍ



これまでの実証事例



ドローン物流と低温時における
バッテリー効果検証



液体融雪剤の空中散布による
効果検証



物資輸送デモンストレーション

寒冷地テストフィールドに
関するページはこちら

南会津町
MINAMIAIZU TOWN

南会津町商工観光課
0241-62-6200



南会津町公式キャラクター
@んだべぇ

●自治体・地域支援 ～新技術実装連携“絆”特区（2024年6月採択）

福島イノベーション・コースト構想
FUKUSHIMA ROBOT TEST FIELD 福島ロボットテストフィールド

○新技術実装連携“絆”特区について

福島県次世代産業課提供

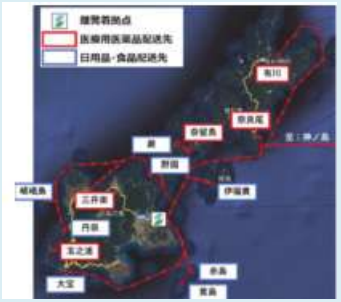
・**地理的に離れた複数の自治体が連携して、共通の課題に取り組む**ための国家戦略特区。**本県は長崎県とともに令和６年６月に指定**。
・買い物難民等の共通の課題を抱える福島県・長崎県が連携し、**ドローン配送を全国に先駆けて実現**し、**新技術の早期実装**を図ることを目指す。

【福島県】



ドローン関連の技術・産業の先進地域
◇福島ロボットテストフィールドにおいて、1,100を超える実証事業
◇周辺には約80社のロボット関連企業が進出

【長崎県】



日本一の有人離島数
ドローン実証の先進地域
◇海上での日用品等のドローン配送を実装済
◇地域住民や事業者の理解・参画により、多数のドローン実証を実施

【特区指定に伴う緩和の内容】
・レベル４飛行（※１）が**エリアでの申請で飛行可能**に
・レベル４飛行の際、**複数機体が同一日時に同一エリアで飛行可能**に
・レベル３．５飛行（※２）でも、**無人であることが確認できれば住宅地上空等も飛行可能**に

※１　有人地帯での目視外飛行
※２　無人地帯での目視外飛行
機上カメラ等の活用により、補助者・看板等による立入管理措置が不要

・イームズロボティクス(株)が本州初となるエリア単位でのレベル4飛行×鉄道上空飛行を実施



×



・RTFではユースケース創出事業を県から受託し運営

平常かつ非常時にも対応するドローン物流実証業務(@南会津)
受託者：日本航空(株)



レベル3.5の1対多運航ドローン物流実証業務(@南相馬)
受託者:イームズロボティクス(株)



Thank you for your attention

